

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル 1：活火山であることに留意）が継続＞

26 日から、ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする振幅の小さな火山性地震が増加しています。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年 3 月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。

雌阿寒岳では短期間に地震増加が繰り返されるなど、火山活動の高まりがみられます。

雌阿寒岳は活火山であることから、規模の小さな噴出現象¹⁾が発生する可能性がありますので、留意してください。

○活動概況

・地震の発生状況等（図 1～3）

昨日（26日）から、雌阿寒岳でポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする振幅の小さな火山性地震が増加しています。地震回数の速報値は、26日が183回、27日13時までは132回となっています。

雌阿寒岳では、今月13日頃から振幅の小さな火山性地震が増加し、17日以降は徐々に減少していましたが、昨日から再び増加しています。

火山性微動は発生しておらず、地殻変動に特段の変化は認められていません。

噴煙の状況は、天候不良のため確認できていません。

明日（28日）から、雌阿寒岳の火口付近の状況を調査する予定です。

・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図 4）

ポンマチネシリ96-1火口南側で実施している全磁力連続観測²⁾によると、全磁力は2014年3月以降概ね横ばいで推移していましたが、2015年3月中旬以降は減少傾向を示しています。このことから、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下では、2015年3月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。

1) 規模の小さな噴出現象とは、火口内にとどまる程度の火山灰、小さな噴石等の噴出のことを指します。

2) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』及び『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。

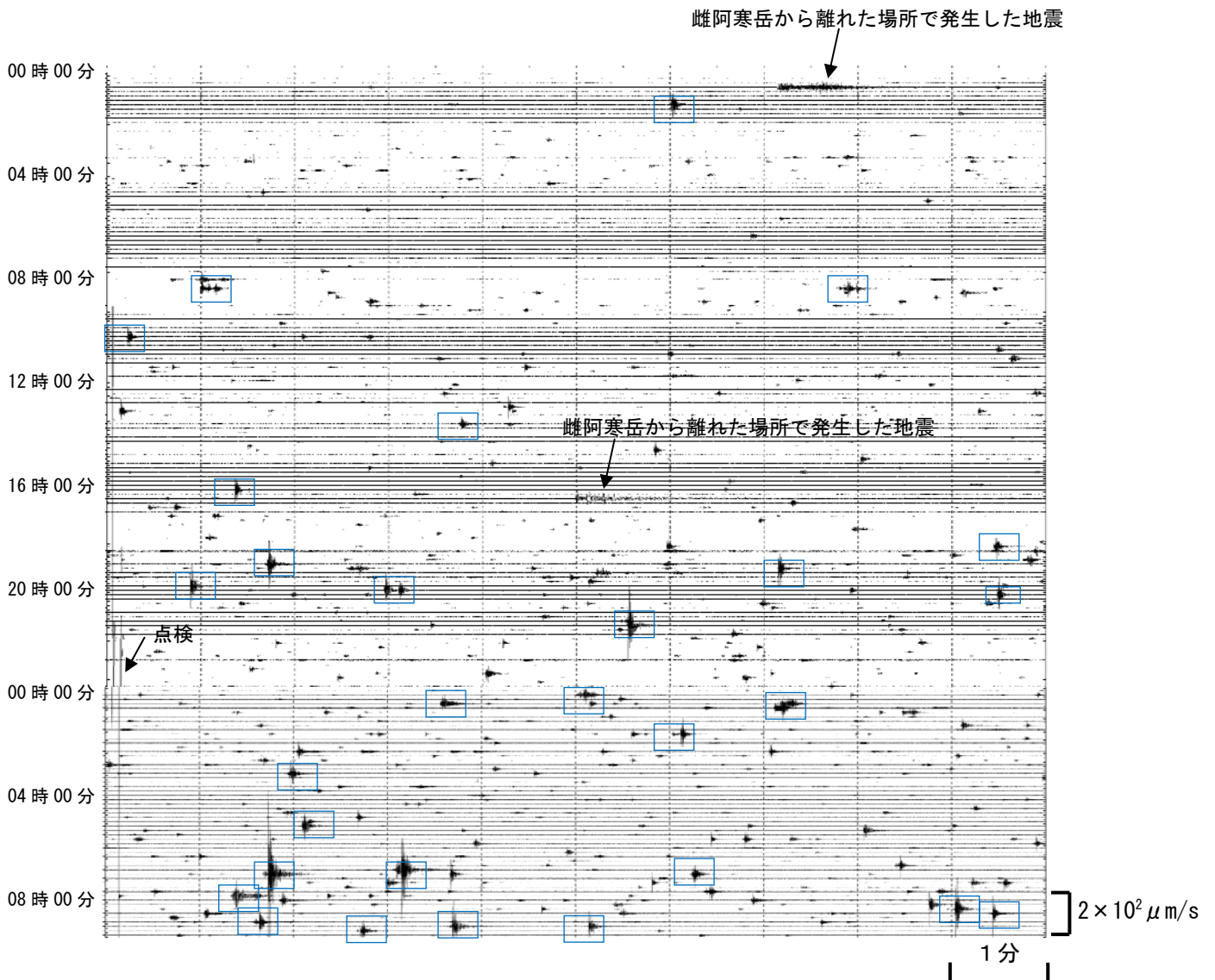


図 1 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況 (7 月 26 日 00 時 ~ 27 日 09 時)
・ オンネットー南東 (山麓の観測点) による速度波形
・ 四角で囲った振動は火山性地震を示しており、同様の振動は全て火山性地震です

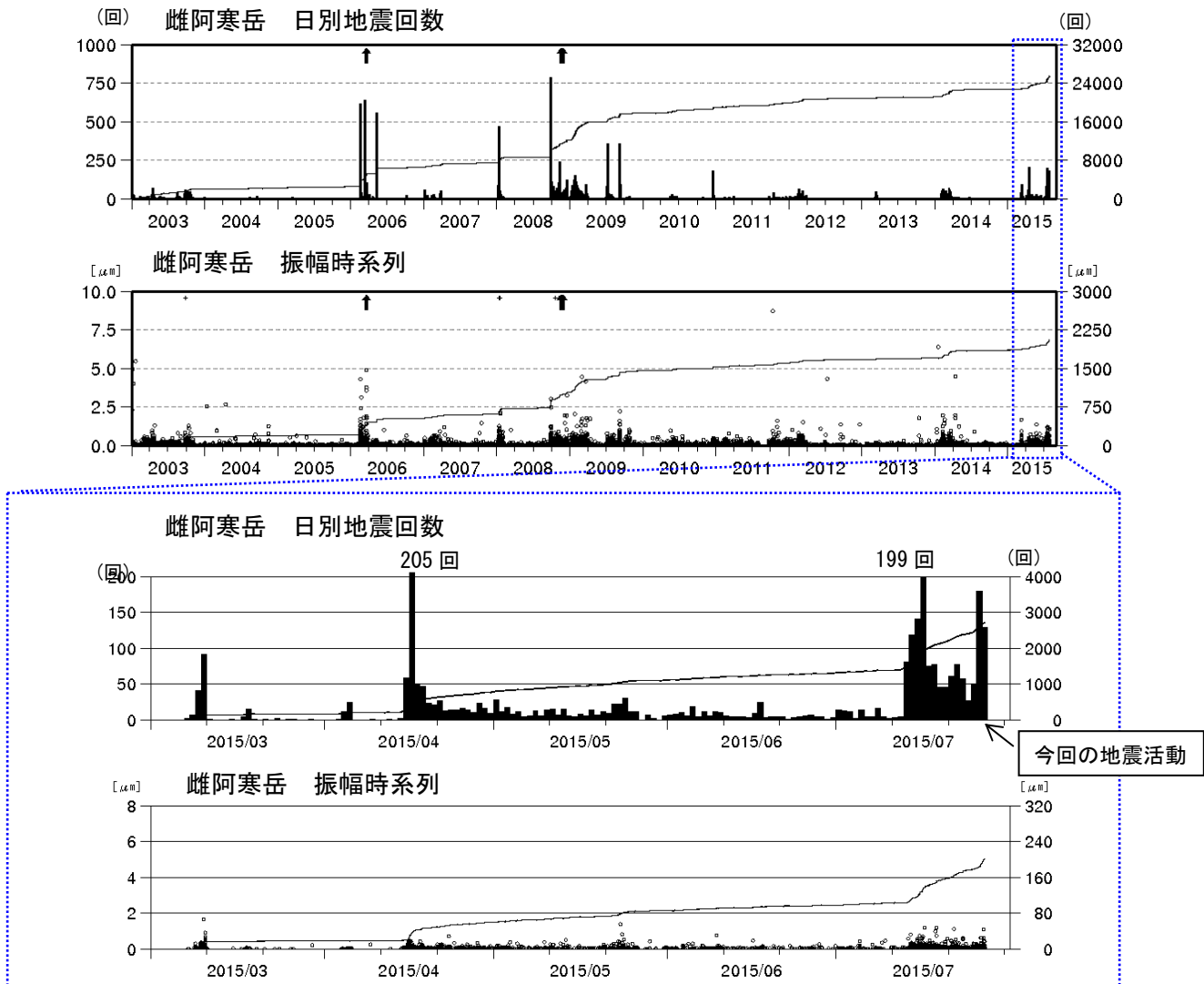


図2 雌阿寒岳 日別地震回数及び振幅時系列 上図：2003年1月1日～2015年7月27日13時
 下図：2015年3月1日～2015年7月27日13時

- ・ 計数基準：オンネトー南東で $0.05 \mu\text{m}$ 以上、S-P時間2秒以内の火山性地震です
- ・ 黒線は積算回数及び振幅積算を示します
- ・ ↑はごく小規模な噴火の発生を示します
- ・ +は振幅が振り切れた地震を表示しています。

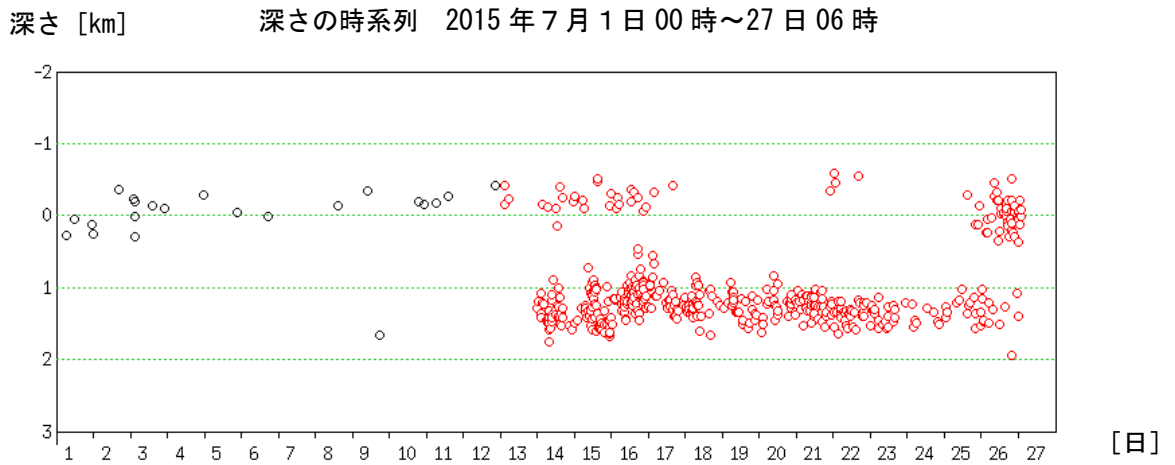
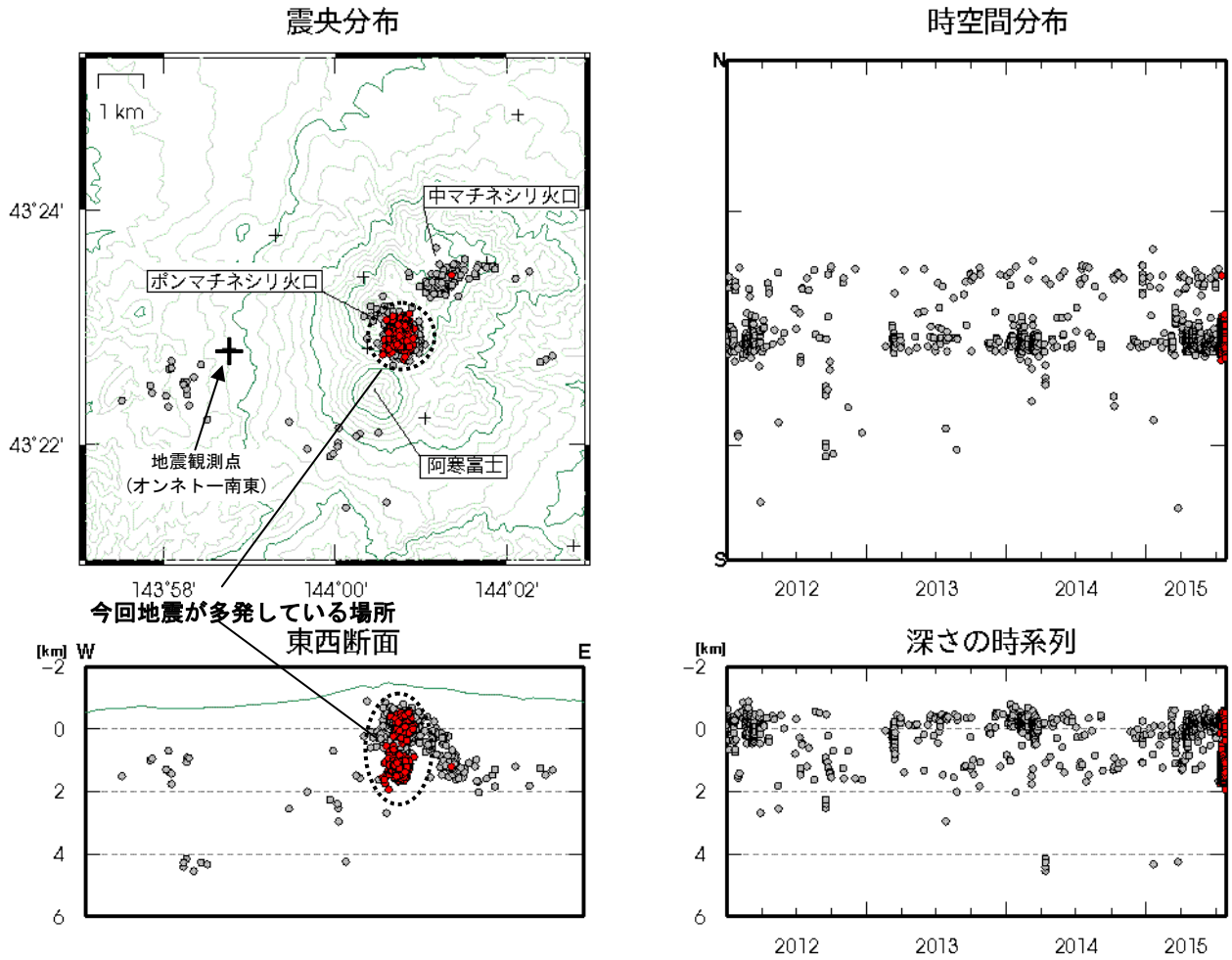


図 3 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布 (暫定値)
 ○印: 2012 年 1 月～2015 年 7 月 12 日の震源
 ●印: 2015 年 7 月 13 日～7 月 27 日 06 時の震源
 +印: 地震観測点

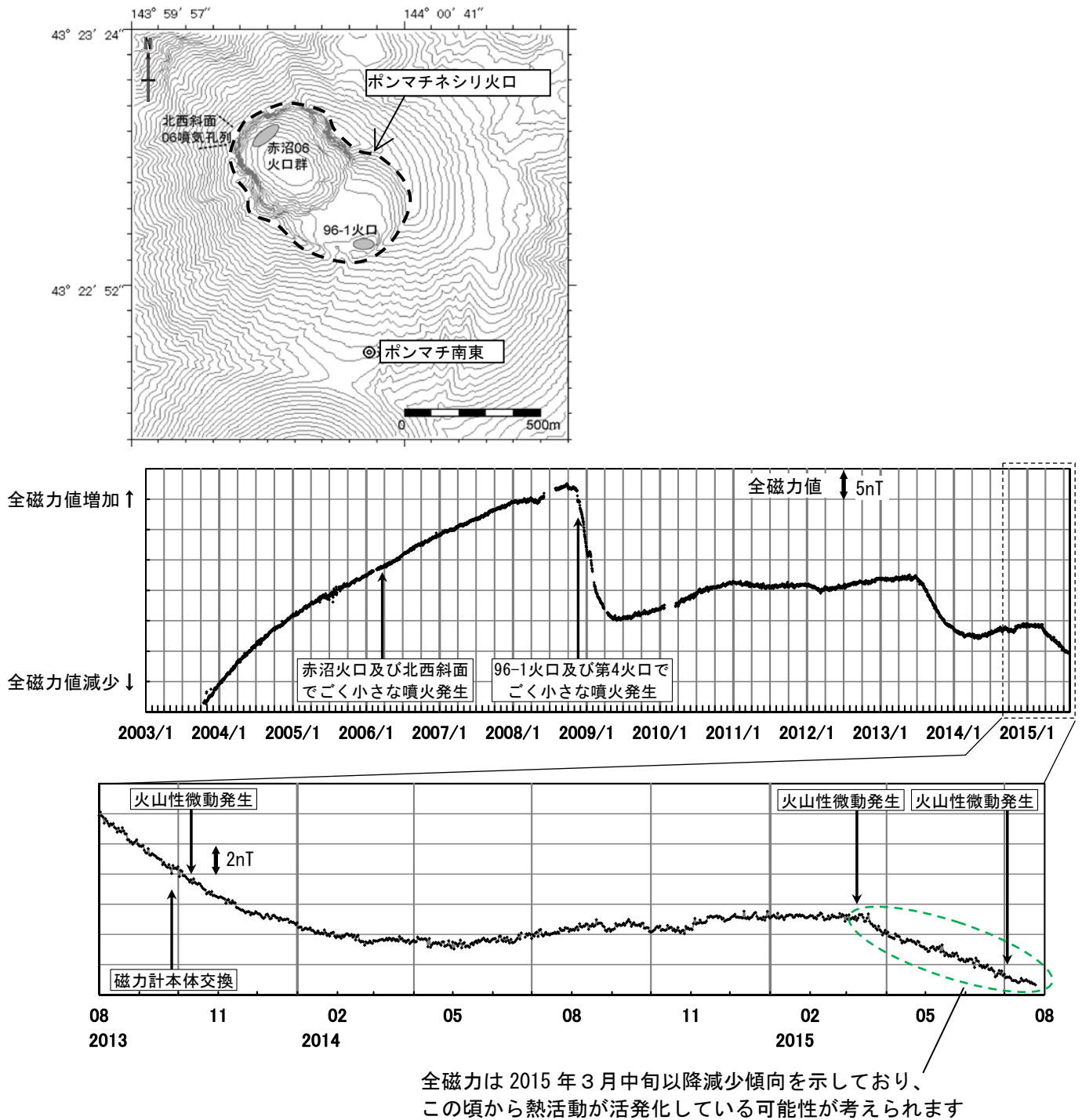


図 4 雌阿寒岳 全磁力連続観測点ポンマチ南東 (上図中◎) の全磁力値変化
 上図 : 2003年10月16日~2015年7月25日
 下図 : 2013年8月1日~2015年7月25日
 ・上のグラフでの空白部分は欠測期間です